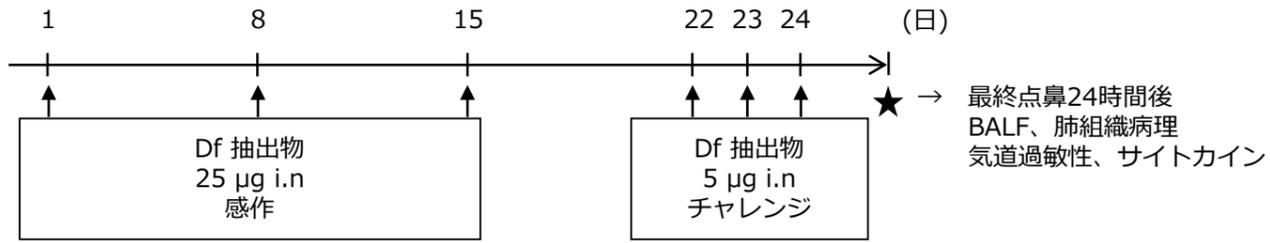


■ BALB/cを使った喘息モデルマウスの作出に関する実験例

* 佐賀大学医学部内科学講座 呼吸器内科 高橋浩一郎先生よりご提供

図1-1. 免疫スケジュール

マウス : BALB/c、♀、6-8週齢



ダニ (Df) 抽出物 (免疫用) を、総蛋白量として25 µgを1週毎に3回経鼻投与
 22~24日に総蛋白量として5 µgを経鼻投与
 最後の経鼻投与から24時間後に、気管支肺胞洗浄液、肺組織病理、気道過敏性、肺のサイトカイン産生を評価

気管支肺胞洗浄液中の細胞数・細胞分画

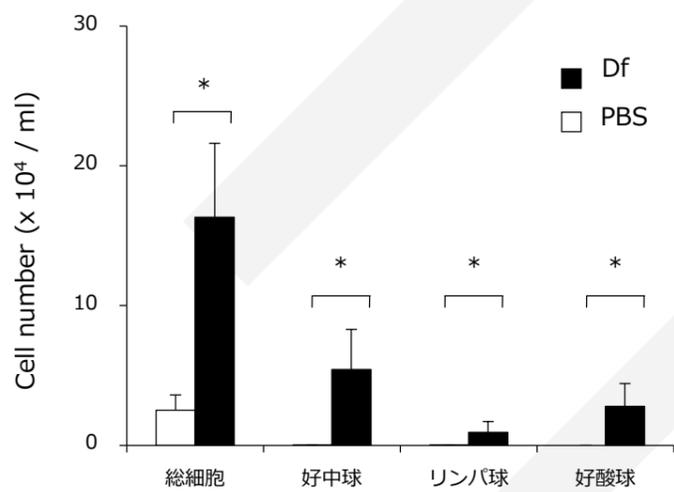


図1-2. Df投与群では、BALF中の総細胞数、好中球、リンパ球、好酸球の有意な増多を認めた。* $p < 0.05$

肺気管支の病理所見

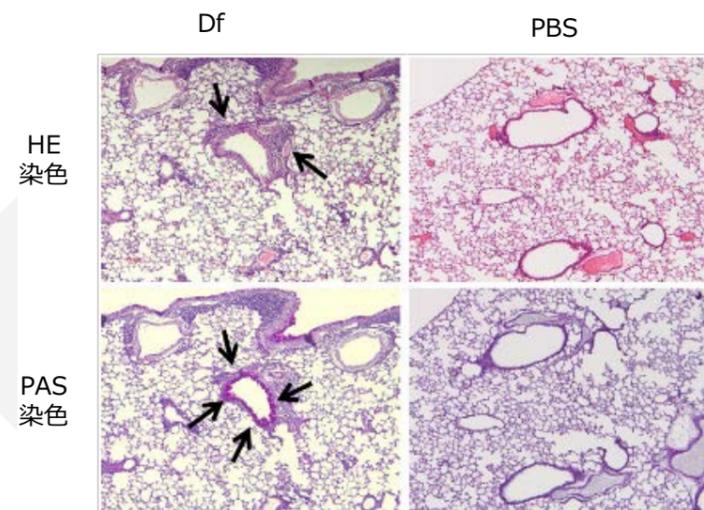


図1-3. Df投与群では、気管支周囲の炎症性細胞浸潤と気管支粘膜の杯細胞の過形成を認めた。

気道過敏性試験

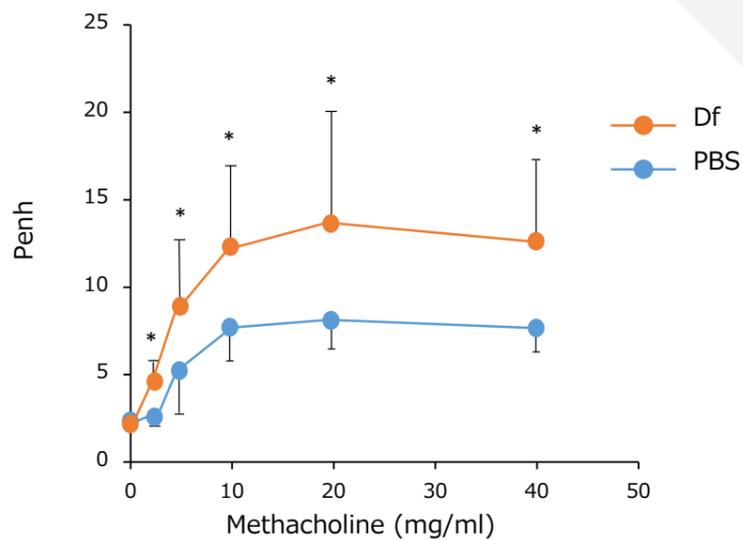


図1-4. Df投与群では、有意な気道過敏性の亢進を認めた。* $p < 0.05$

肺組織におけるサイトカイン産生

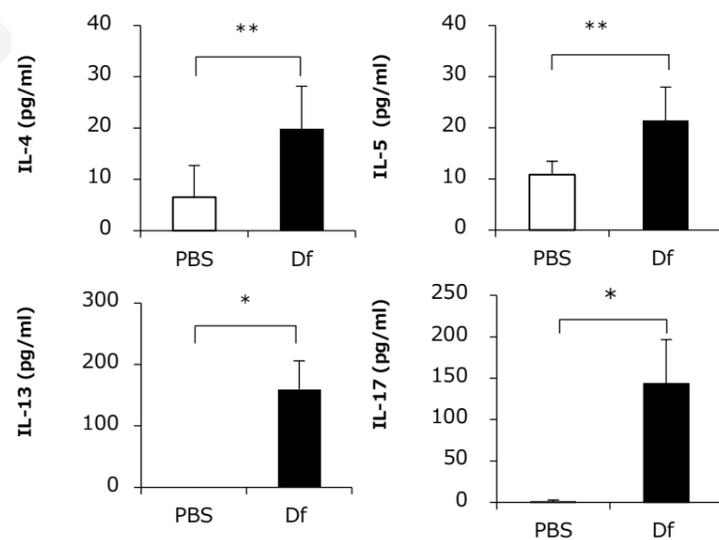


図1-5. Df投与群では、肺におけるIL-4, IL-5, IL-13, IL-17の有意な増加を認めた。* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$

実験環境、手技、マウスのコンディション等によっては同様の結果が得られない事があります。
 本プロトコールは指標としてご使用下さい。